

今年度の「数学科研究部 主任者会」はリモートで開催をした。全体会では、研究部組織や研究テーマ、研修日程を確認した。その後、各部会で、正・副運営委員の選出、指導や評価におけるICTの活用方法の情報交換を行った。

【研究テーマ】

新しい時代に必要となる資質・能力を育む算数・数学教育
—主体的・対話的で深い学びの実現を目指して—

〈研究の重点〉

- ①「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現
- ②ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実
- ③何を知っているか、何ができるかという「知識・技能」の習得
- ④知っていること・できることをどう使うかという「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ⑤どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかという「学びに向かう力・人間性等」の涵養

〈テーマ設定の理由〉

文部科学省（2015）は教育課程企画特別部会における論点整理において、「学習指導要領改訂の視点」を『新しい時代に必要となる資質・能力の育成』、『育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し』、『アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善』からなる『育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の充実』と示した。小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント（文部科学省、2017）において、改訂の基本的な考え方を『教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成』、『知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成』などであることを示した。新学習指導要領が示す「新しい時代に必要となる資質・能力」を算数・数学教育において育成していく必要がある。

中央教育審議会の教育課程部会における審議のまとめ（2021）では、新たに学校における基盤的なツールとなるICTも最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の充実が図られることが求められるとある。教師による指導方法や適切な教材、学習時間の提供を行う「指導の個別化」、子供自身が学習が最適となるように調整する「学習の個性化」、以上の2つを学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」である。また、必要な資質・能力を育成するために他者と協働していくことが「協働的な学習」である。この「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことを重点に加えて、研究していきたい。

【研修日程】

第1回研修会

日 時	研修内容	会 場
5月22日（水） 午後3時00分	全体会（リモート） 顧問校長あいさつ 部長あいさつ 研究テーマ・本年度の研修 講話（30分程度） 佐久間中 西田亮校長先生より講話 連絡事項（研修のまとめ等）	8会場 （中学校）
	分科会（各会場） テーマを決めて意見交換	

第2回研修会

日 時	研修内容	会 場
8月1日（火） 午前9時00分 運営委員 午前8時30分 集合	全体会（9時00分） 顧問校長あいさつ 部長あいさつ 日程確認	教育会館
	分科会（9時20分～） 研究発表 研究協議 指導講評	
	全体会（10時30分～）大会議室 講話 鳴門教育大学 准教授 藤原大樹先生 解散（12時00分）	

第3回研修会

日 時	研修内容	会 場
10月30日（水） 午後2時00分 ※運営委員は 午後1時00分集合	研究授業（午後2時00分）各校 分科会（午後3時00分） 研究協議	市内4校

<当日のリモート開催の様子>

